



RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09年度 No.10 9月10日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

① 例会記録

② 特集「ロータリーよ どこへ行く」シリーズ③

①第1439回例会

平成20年9月3日(水) 井波文化センター

1. 点鐘 河合副会長
2. 君が代斉唱
3. ソング「奉仕の理想」
4. ゲスト紹介：山田直毅氏(富山みらい RC：08-09 地区大会実行委員会事務局長)大会の案内・・・地区大会パンフレットを持参いただきました。【内容記載・・・下記】
5. ビジター：三吉外男君(南砺 RC)
6. 月誕生日：横山豊介会員(20 日)、浅田裕二会員(24 日)、長谷川吉美会員(25 日)



7. 会長の時間…河合副会長代理「初めて会長の代理をします。八尾の風の盆も無事終わったようです。1万5千ほどの町に10万人の観光客が訪れたそうです。哀愁漂う踊りの風情には、賑やか過ぎる人の出のような気がします。踊り手不足か、砺波に嫁いだ知人も、毎年休暇をとり、参加しているそうです。郷土の伝統を

守ろうという素晴らしいことです。自分の村の獅子舞は存続の危機があります。八尾のような郷土の芸能を守ろうという教育が小さいうちから必要なのかもしれない。今日は山田様、よろしくお願いします。」

8. 幹事報告…「先日の南砺市豪雨災害の義捐金ですが、先日集まった額に、クラブから足して3万円を南砺 RC 会長に渡しました。近隣 RC でまとめて寄付してもらいます。」

9. 委員会報告…出席委員会(代理):25名中16名出席(出席免除者8名中4名出席)・・・出席率76.19%

10. **ニコニコBOX**(助田 SAA：本日7名 8,000円)

山田直毅氏：地区大会のお願いと登録のお礼。

横山豊介会員：誕生日お礼。

三角会員：先週公式訪問欠席お詫び。

河合副会長：山田様ようこそ。

高瀬幹事：山田様ようこそ。

山本会員：山田様ようこそ。木村会員へ会報原稿お礼。

助田 SAA：突然韓国より6名の来客あり。菅沼集落や白川を案内しました。

(9月計 8,000円：年度累計 118,000円)

地区大会の案内：山田直毅氏

山田氏：富山みらい RC は設立11年目です(地区

内 61 番目)。井波庄川ロータリークラブが来年 30 周年ということで、大先輩です(地区内 41 番目)。



さて、地区大会は「自然とともに在る価値」をテーマに、立山をあおぐ特等席で、語ろう未来のロータリーをキャッチフレーズに予定しております。会場は国際会議場で、特別講演は、C. W ニコルさんが「森から未来をみる」と題して話をされます。10月5日に呉羽カントリーで記念コンペを開催します。また、2日目の昼食は「街なかランチ」で、おすすめ店で自由に食事をさせていただきます。エクスカーションは、環境に優しい「ライトレール」で、岩瀬を探訪して頂き、「松月」で食事をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

卓話「新世代月間にちなんで」 坂井彦就新世代委員



坂井会員:新世代月間ということで話をさせて頂

きますが、行事は高瀬神社奉納剣道大会に協賛をしています。14日に大会がありますので、一度出席して様子を拝見し、報告させていただきます。

先ほど、おわらの話が出ましたが、最近の傾向ですが、団体より小グループや個人が多くなってきています。以前のような1泊2食から、1泊朝食のみのお客が増えています。先日の東海北陸道の全通で、中京方面からのお客は急増、150%くらいです。

新世代に関して、私の職場「三楽園」では、2004年度より、新卒者の採用を積極的にはじめ、それまで従業員の平均年齢が50歳代でしたが、最近では30歳代になりました。若い人を長く働ける職場をと、取り組んでいます。そのためには、若い人の考えや傾向を把握するよう努めています。最近の若者は真面目で、地味な子が多く、余り欲求が強くないようです。

自分が実行委員長をしています、第20回経営研究フォーラム(主催:富山県中小企業家同友会)が10月26日(土)午後より、富山大学五福キャンパスで開催いたします。基調講演は、「宇宙ロケットに夢を乗せて」と題し、植松電機専務の植松努氏です。皆様、無料ですので、一度大学のキャンパスにお越し頂き、是非、話を聞いてみてください。(資料配布) 【要約:山本】

【編集後記】

今回、富山みらい RC から、山田地区大会実行委員会事務局長がお越しになりました。井波庄川ロータリークラブの HP をみました、ニコルさんの本の紹介を有難うございました、といわれ、嬉しく思いました。今度の地区大会は、河合会員の「南砺との山々を守ろう」の趣旨にぴったりなので、当クラブは応援しますよ、と申し上げました。是非、皆さんで地区大会に参加し、盛り上げましょう。

今号に、木村ロータリー情報委員長の記事、パートⅢを掲載しました。次号もお楽しみに!(山本武夫)

シリーズⅢ『食べても 食べても』

井波庄川ロータリークラブが誕生した昭和 54 年(1979 年)は、地区が分割、再編された年でもあった。

富山、石川、岐阜、三重の 4 県のクラブで編成されていた 261 地区が、富山、石川の 261 地区と、岐阜、三重の 263 地区に分割されて、クラブ数 38、会員数 1,809 名の 23 地区の中で、一番小さな地区となった。そのことが余程みじめに思われたのか、何とか 40 クラブ、会員数 2,000 人に努力してほしいと公式訪問の卓話の中で哀願するように訴えられた萩布貞雄ガバナーのすがたが、いまでも目に浮かぶ。

1905 年、わずか 4 人のメンバーで誕生したロータリーは、その 100 年を過ぎた現在では、その数 1,200,000 人を超え、1920 年わが国で最初に設立された「東京ロータリークラブ」が、今ではクラブ数 2,300、会員数が 10 万人にとどくほどに拡大成長した。

何とか地区内 40 クラブ、会員数 2,000 人にしたいという萩布ガバナーの切実な願いは年度内には無理であったが、翌年度の 1 月、わずか 1 年 7 ヶ月後に達成されてしまった。そして現在では、65 クラブに増え会員数も 3,000 人まであと一息というところまで来た。

どんなに多くのクラブが出来、会員数が増えても、絶対に満足しないのがロータリーである。食べても食べても決して満腹感を覚えることのないのがロータリーである。

「ごちそうさま」といって箸を置くことが来ないのがロータリーである。この食欲な食欲は、消化不良を起こしていることも気がつかないで、食べたもの以上のものを排出している。

生あるものすべて、成長がとまると衰亡が始まる、組織もまた然り、ロータリークラブも例外でなく、会員の増強なくしてクラブの発展はありえない、といわれる。

この論法は一見正しいようで正しくないところもある。成長期がおわり衰退期に入るまでには、必ず成熟する期間というものがあることを見落としている。

美酒は、ゆっくりとねかせ、発酵、熟成させて生まれる。料理の素材に味がしみこむのは作り立てではなく、冷ました時だという。ものの旨みをひきだすには、このような一見無駄のようにも見える時間が必要だということをロータリーは知るべきである。

だが、1996 年をピークに、日本のロータリアンは 30,000 人以上、この地区でもこの 5 年間で 4,000 人も会員が減っている。しかも、この減少傾向はまだ続くようだ。

このような時こそ、じっくりと時間をかけてロータリーを見つめ、その本質を確認する絶好の機会といえる。そうすれば、どんなに会員が減っても、ロータリーが消滅することは絶対にないと確信している。